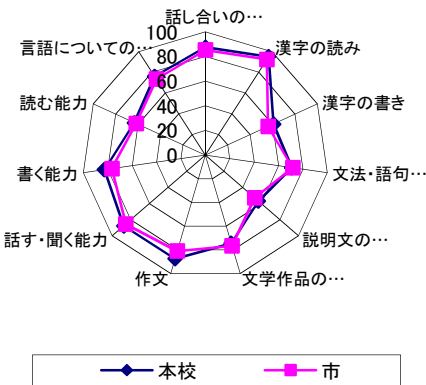


宇都宮市立古里中学校 第2学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	87.6	85.4
	漢字の読み	95.0	92.4
	漢字の書き	60.8	56.0
	文法・語句に関する知識	70.7	71.7
	説明文の内容の読み取り	56.9	53.0
	文学作品の内容の読み取り	74.5	76.7
	作文	87.6	81.1
観点別	話す・聞く能力	87.6	85.4
	書く能力	82.7	76.6
	読む能力	63.3	61.6
	言語についての知識・理解・技能	76.0	73.5



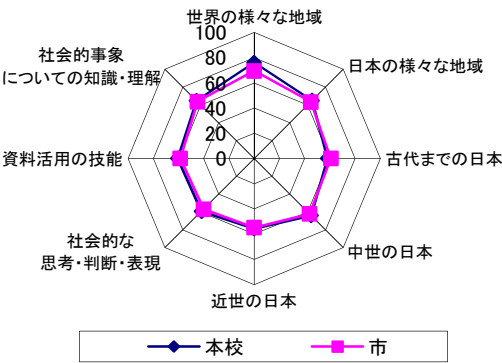
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	市平均比較+2.2%であった。比較的良好な聞く力を持っている。当該学年の1年次の正答率は市平均比較-0.1%であり、今年度はやや向上した。 全ての問で市平均を上回っている。とりわけ、話の内容や構成を捉える力は十分に備えている。しかし、目的に応じて聞き取る力にやや課題がある。	単なる聞いた内容の理解にとどまらない、目的に応じた聞き取りの力を高めていく。聞き取った情報の取捨選択、整理の方法について、具体的な方法を示し、実生活に直接的に役立つ聞く力を養成する。
漢字	市平均比較+2.6%であった。比較的良好な漢字の力を持っている。当該学年の1年次の正答率は市平均比較+4.5%であり、今年度はやや低下した。 特に漢字の「読み」の力は高く、「読み」を問う4問全てが市平均を上回り、さらに、そのうち2問は100%の正答率である。しかし、漢字の「書き」となると、4問中1問で正答率が市平均を下回った。	小学校で学習した漢字1006字の書きについて再確認する小テストを作成し、授業冒頭に実施する。さらにそれを定期テストの範囲とすることで、基本的な漢字の書く力の定着を図る。
文法・語句に関する知識	市平均比較-1.0%であった。およそ平均的な文法・語句の知識を持っている。当該学年の1年次の正答率は市平均比較+0.2%であり、今年度はやや低下した。 全4問の構成で、「動詞の活用」「類義語」「敬語」の問に関しては市平均を3%～6%上回った。大きく平均を下回ったのが「単語の分類」に関する問であり、市平均と比べて、18.5%も正答率が低い。	1年次の文法事項に大きな躓きが見られることから、必要に応じて、1年次の文法学習を振り返る時間を意図的に作っていく。読むことや書くことの指導の中で、関連付けながら文法の基礎事項の再確認を行う。
説明文の内容の読み取り	市平均比較+3.9%であった。説明文の読解力は比較的良好である。当該学年の1年次の正答率は市平均比較-0.6%であり、今年度は向上した。 顕著に良好な正答率を示したのが、文章の要旨を捉える問や、文中の例を自身の日常生活や経験に置き換えて考える問である。やや躓きが見られるのは、指示語が示す内容を指摘する問であった。	指示語の示す内容を指摘する課題を与え、的確に文章の内容を理解するトレーニングを行う。
文学作品の内容の読み取り	市平均比較-2.2%であった。文学的文章の読解は比較的苦手である。当該学年の1年次の正答率は市平均比較-4.1%であり、今年度はやや向上した。 心情理解や文脈の中での語句の理解については、およそ平均的であるが、表現の工夫を捉える問の正答率が、5%以上低い。	表現の意図やねらい、効果を考えさせ、話し合わせるなどして、文学的文章を客観的に見つめ、分析できる素養を身に着けさせる。
作文	市平均比較+6.5%であった。作文力は高い。当該学年の1年次の正答率は市平均比較+4.7%であり、今年度はやや向上した。 すべての項目で市平均を上回っている。特に、段落構成力や意見の表明力が優れている。ただし、グラフから情報を正確に取り出す力に課題がある。	非連続型テキストの読解に課題が見受けられる。情報を正確に、言葉によって取り出す訓練を積み重ね、それらを自分がどう「解釈」し「評価」するかを考え、まとめる授業を、作文の単元を中心に展開する。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の様々な地域	76.1	69.4
	日本の様々な地域	65.0	63.4
	古代までの日本	58.3	60.8
	中世の日本	64.0	62.1
	近世の日本	55.6	54.9
観点別	社会的な思考・判断・表現	59.2	56.9
	資料活用・技能	60.6	58.7
	社会的な事象についての知識・理解	64.8	63.7



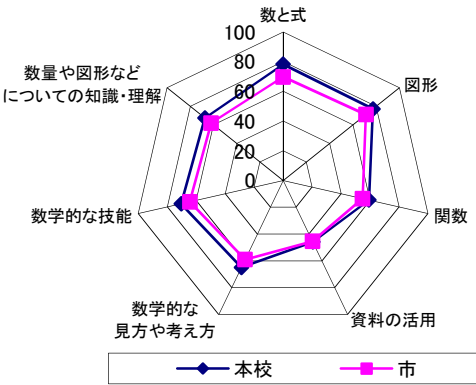
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域	地球儀を活用して大陸の位置を問う問題は、9割の生徒が正答していた。ヨーロッパについての問題ではいずれも正答率が全国・市の平均を上回っていたが、思考力に関係して、グラフや地図から特徴を読み取る問題の正答率は60%台とやや低かった。	どちらの領域も、基礎的・基本的な知識を問う問題の正答率がおおむね市平均より高く、学習内容がある程度定着していることがわかった。今後は、日頃からグラフの読み取りや複数の資料から特徴を読み取るなどの活動を増やし、演習を取り入れることで地理的な技能を身につけさせていく。
	日本の様々な地域	都道府県の位置と名称を問う問題の正答率は高かったが、歴史で得た知識を参照して地図を読み取る問題では、正答率が41.4%と低かった。また、造山帯や人口分布の特徴を読み取る問題は正答率が8割を超えていたが、反対に複数の資料を読み取る問題では、正答率が45.9%と全国・市よりも3～4%低かった。中部地方に関連した問題の正答率は5～6割で、産業の特色に	
歴史	古代までの日本	縄文時代に関する基本的な知識を問う問題での正答率は8割だった。一方、縄文時代と比較して弥生時代の特徴を記述で答えさせる問題では52.7%と低くなった。また、朝鮮半島の様子を問う問題では正答率が24.3%とかなり低く、知識に偏りがある古都がわかった。	古代までの日本と中世までの日本の2つの領域は、学習時期が1年生だったために、内容を忘れていた生徒が多かったと思われる。よって、既習範囲を常日頃から復習するよう指導するとともに、授業においてもミニテストのような形で1年生の範囲の復習を取り入れていきたい。文化史についても、写真資料や絵画資料などに慣れるようにするため、資料集などに目を通しておこう指導していく。近世の日本に関しては、江戸幕府における将軍ごとの政策の違いや法令・史料の読み取りなどに力を入れ、入試に対応できるよう指導していく。
	中世の日本	この領域ではいずれの問題も正答率が8割を超えることがなく、復習が不十分であることがわかった。歴史上の人物の業績と武士の生活についての資料の読み取りは70%台とややできたものの、室町時代の文化を問う問題では正答率が50.5%と低く、学習内容に偏りが見られた。	
	近世の日本	歴史上の人物の業績を問う問題では、織田信長の政策についての正答率が20～30%と低かったが、豊臣秀吉については83.8%と全国・市を上回った。江戸時代に農民に向けて出された法令の目的を考えさせる問題では、正答率が58.1%だったが、全国・市を10%以上上回っており、ある程度江戸幕府の特色を理解していることがわかった。	

宇都宮市立古里中学校 第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	78.2	69.7
	図形	77.3	71.2
	関数	59.2	54.7
	資料の活用	45.9	45.4
観点別	数学的な見方や考え方	64.9	59.1
	数学的な技能	70.4	64.4
	数量や図形などについての知識・理解	67.5	62.1



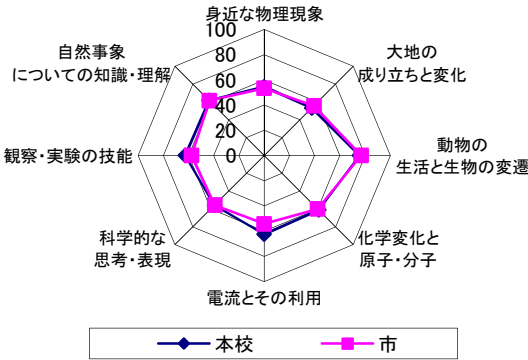
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は宇都宮市の平均より8.5%高い。市の平均より大幅に高く、基本に関する部分は概ね良好である。すべての設問で市の平均を上回っているが、多項式のいろいろな計算についての正答率が他に比べるとやや低い。	基礎基本の定着を図るため、反復練習に力を入れる。文字式の値や等式の変形、比の性質など1、2年生の復習全般を授業の中に取り入れていきたい。
図形	正答率は宇都宮市の平均より6.1%高い。市の平均より大幅に高く、基本に関する部分は概ね良好である。平行線と角については、授業でも関心が高く、正答率が9割を越えているのに対し、回転移動を含む、図形の移動に対してやや正答率が低い。	図形の分野では、直感力や表現力が求められる問題が多いので、問題の見通しをしっかりと立てたうえで、図や自分の言葉で表現できるように指導したい。また、論理的思考、推理的思考に興味がある生徒は、さらに伸ばしていきたい領域である。苦手な生徒に対しては、論理的及び、推理的に考えることの楽しさを教えていきたい。
関数	正答率は宇都宮市の平均より4.5%高い。基本に関する部分は概ね良好である。表の活用に対してやや弱い傾向があり、1次関数への苦手意識を持つ生徒が多く見られる。記述式に対して、無回答数が極めて少なく、複雑な問題にも粘り強く取り組む姿勢が見られる。	表、式、グラフの関連を意識しながら授業を進め、単元プリントを実施し、反復練習に努めたい。具体的な問題演習を通して、1次関数のよさを実感させ、その変化を多方面からとらえられるよう指導していきたい。また、数学的な見方や考え方を伸長するべく、高度な課題へも挑戦させたい。
資料の活用	正答率は宇都宮市の平均より0.5%高い。領域内では、度数分布表の活用に対して、市の平均をやや下回っている。	重要事項である、度数分布、相対度数、代表値、近似値と誤差に関連する問題演習を行い、基本の定着を図りたい。また、課題学習を通して、目的に応じた適切な資料の集め方や合理的な処理の仕方を確認し、資料の傾向を読み取り、問題解決に積極的にいかせるようにしていきたい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	身近な物理現象	54.5	53.4
	大地の成り立ちと変化	53.3	55.7
	動物の生活と生物の変遷	75.7	76.9
	化学変化と原子・分子	61.1	60.0
	電流とその利用	62.5	54.2
観点別	科学的な思考・表現	55.9	55.6
	観察・実験の技能	62.6	57.7
	自然事象についての知識・理解	61.8	61.5



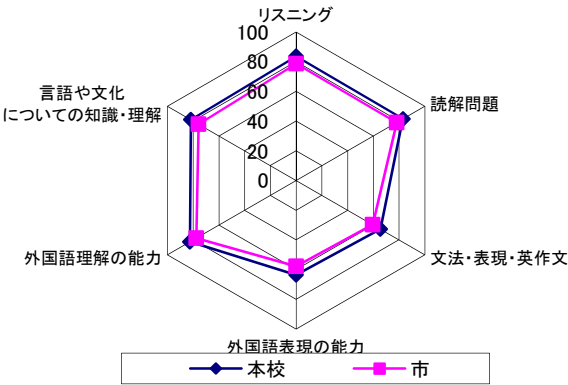
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	正答率は宇都宮市の平均より1.1%高い。力と圧力の問題は概ね良好であるが、水中の物体に働く浮力についての正答率が他に比べると低い。光と音の性質の問題は、音の高低による波形の設問の正答率が市の平均を大きく上回るが、低い音を出す条件の正答率がやや低い。	光や音、力など日常生活と関連した事物・現象に関する観察・実験を今後も数多く取り入れるとともに、規則性や性質等について考える時間を十分にとっていききたい。日常生活や社会と関連付け、ものづくりを取り入れ、原理や仕組みの理解を深めていきたい。
大地の成り立ちと変化	正答率は宇都宮市の平均より2.4%低い。地層の重なりの問題は概ね良好であるが、火山活動と火成岩の設問の正答率が市の平均より低くなっている。特に、火山岩のつくりやでき方についての設問の正答率が低い。	火山や地震については、日本付近のプレートの動きなど地球の内部の働きと関連付けてとらえさせるとともに、野外観察などをもとに地層の規則性や過去の様子を考察させることが重要である。しかし、野外観察が難しい実情をふまえ、地震や火山活動の過去の体験や知識、災害に対する防災等、日常生活や社会と関連付けながら学習を進めたい。
動物の生活と生物の変遷	正答率は宇都宮市の平均より1.2%低い。セキツイ動物や無セキツイ動物についての設問に対する正答率はとても高いが、恒温動物・両生類・相同器官についての設問は、正答率がやや低くなっている。	動物の体のつくりと働きや、動物の体のつくりなどの特徴に基づいて分類できることを理解させ、動物の総合的な見方や考え方を養うことが大切である。そこで、観察や実験から得られた情報を処理させ、結果を分析させたり、レポートの作成や発表を行わせたりするなどにより、思考力や表現力などを高めたい。
化学変化と原子・分子	正答率は宇都宮市の平均より1.1%高い。酸化銅の実験方法がよく理解できており、化学反応式、酸化された物質や還元された物質についての正答率も高い。しかし、化学反応を日常生活と関連づけて考えることが十分にできていない。	化学変化についての観察・実験を行い、化合や分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解させるとともに、原子や分子のモデルと関連付けて考えることが必要である。小学校での学習および日常生活や社会と関連したものを扱い、物質や化学変化に対する興味・関心を高めていきたい。
電流とその利用	正答率は宇都宮市の平均より8.3%高い。全ての設問で市の平均を大幅に上回っている。特に、電流の大きさを電流計の指針から読み取る問題では12%以上、グラフから読み取る問題では15%以上市の平均を上回っている。	電流と電圧、電流の働き、静電気等に関する実験を数多く取りれてきたことで、基本的な性質の理解が深まったものとする。今後も、日常生活や社会との関連付けながら、電流と磁界についての実験を数多く取り入れ、科学的な見方や考え方を養っていききたい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	リスニング	83.6	78.7
	読解問題	82.9	78.0
	文法・表現・英作文	65.5	59.4
観点別	外国語表現の能力	63.5	57.8
	外国語理解の能力	82.6	77.6
	言語や文化についての知識・理解	81.9	75.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング	正答率は83.6%と市の平均を5%近く上回る結果となった。おおむね内容を聞き取る力は定着していると考えられる。音声面においては音読練習やALTの発音ゲームなどを取り入れ、聞き取りは対話文を中心に活動している。	音声面に関して音と音のつながりに注意できるようにALTの発音をよく聞かせたい。対話活動でアウトプットできる場面を設定できるようインプットをたくさんさせていく。
読解問題	正答率は82.9%と市の平均を5%近く上回る結果となった。対話文や長文の読解力はある程度理解できていると思われる。その一方で指示語や代名詞をとらえられない生徒もいる。	本文の大まかな内容を読み取れるように、新出単語の確認と指示語、代名詞を明確にさせていく。それに対応できるようなワークシートを工夫する。
文法・表現・英作文	正答率は市の平均を6.1%上回る結果となった。文法問題に関してはおおむね定着していると考えられる。表現問題に関しては伝えたい内容を正確に書くことができない生徒がいる中で比較的自由英作文は積極的に書く姿勢がみられる。	基本文を中心とした文法問題や単語テストは引き続きやっていき、語彙力、文法を定着させていく。英作文指導においては、身近なことや伝えたいことを中心に書かせ、個別に細かく指導していきたい。